

令和4年度 園評価書

園番号

40

園名

小島こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「心豊かなたくましい小島の子」	好きを つなげよう もっと 好きになろう	様々な遊びに興味をもち、試したり工夫したりして遊ぶ	・保育者が子どもの興味・関心を持っていることや季節、行事などを意識し、環境を用意する中で、子ども達は「自分で考える」「自分たちで工夫する」ことやアイデアを伝え合う姿、遊び込む姿が増えた。また「昨日の続き」をやる姿が見られるようになり遊びがつながるようになってきている	A	A	・遊びがつながっていることは子どもが興味をもっている事であると思う ・小島の子は(地域全体として)穏やかで優しいということが良いことでもあるが、もっと自己アピールをしても良いのではないかな。こども園の時から優しい環境にいて逆に心配になる。自分から何かやる意欲を持つことが大事であり伝えられることが出来ていれば充分なのではないか ・来園者に自分の出来ることを自分から見せにくる姿に地域のひととの交流の心地良さを味わっている様子を感じる ・園外に出た時や外部の来園者に職員の方から挨拶する姿を子どもに見せる場面を大事にしていくと良い	・子どもたちが主体的に遊び、充実感を持つことが出来る様に保育者は日々の子ども達の興味・関心を捉え、教材研究や環境づくりに努めていく ・子ども達の自らやろうとする姿、遊び込みたり試行錯誤したりする姿を保育者は認めたり一緒に遊んだりしていきながら達成した喜びを分かち合い周りに発信し、子ども達の自信につなげていく ・子どもの伝えたい話したい思いを大切に支えたり友だちとの懸け橋になったりしながら伝え合うことの楽しさや喜びを感じられる手助けをしていく ・身近な自然や様々な人との関わりの中で親しみを感じたり感動体験を味わったりし、その後の遊びにつなげていく
		友だちと関わることを喜び、自分の思いや感じたことを友だちに伝えたり友だちの思いを聞きながら遊びを進める	・保育者が子どもの思いを受け止め他児に発信したり、自分で伝えられるように意識して関わっていったことで「それすごいね」と子ども同士で認め合う姿や「こっちの方が良いと思うよ」などと自分の考えを伝えられる子が増えている一方、話したい思いが強くなり友だちの話聞くことの弱さを感じる	B	A		
		地域の人や身近な人とあいさつを交わす心地良さをあじわっている	・保育者から気持ち良く挨拶をするように意識していった中で子どもも挨拶をする心の心地良さを感じ、自分から挨拶が出来るようになっていく機会や地域の方たちとの交流の機会が少なかったので意識して作っていくことが必要である	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個々の発達や経験の差を職員間で共通理解し個々に応じた教育・保育を行っている	・日々の振り返りを通して全職員で子どもの姿を共有しながら園全体で一人一人に向き合うようにした。写真を見ながら話し合うことでより一人一人に対して担任以外も共通の援助や関りが出来るようになってきている	A	A	・保護者からみて職員が日々の保育を一生懸命行っていることはよくわかるが日々の振り返り、研修についてはわからないため評価をつけられないこともある。園説明でもあったが、これからもっと発信していくと良いと思う	・職員間の振り返りの中で発達の押さえや個々に応じた援助の方法など話し合い保育の質を高めていく。また保護者へ園で取り組んでいる内容についての発信方法を考えていきたい	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭環境や在園時間を踏まえ、生活リズムを整えたり気持ちに寄り添い対応したりしている	・教育時間後(14:00~17:00)、年齢や時期、体調に配慮しながら保育を行っている。休息時間を作ったり、静かに過ごす時間、園庭で活発に活動する時間など工夫し、一人一人が心身共に安心、安定して過ごすことが出来ている	A	A	・個に応じた保育が子ども達にとって安心な園生活につながっている	・一人一人が安心して過ごすことが出来るよう個々に応じた援助の方法を考え、午睡担当の職員との連携を図っていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	様々な遊びを進めていく中で子どもが友だちの思いを聞いてみよう 友だちに自分の思いを伝えてみようと思えるような遊びの環境や場を工夫している	・季節や興味関心に合わせた環境づくりや子どもの振り返りの時間を意識していったり子どもの思いを聞く場や伝えようとする姿を捉え、待ったり言葉を添えたりするようにした。それらの関わりの中で友だちの話聞くこととする姿勢や相槌を打って話を聞くこととする姿が多く見られるようになってきている	A	A	・聞くことに対して職員の手立てが出来ているが子どもの具体的な姿につながっていけると良い	・今後も自分の思いを伝えたり友だちの話に興味を持って聞いたりする場面を大事にしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	さまざまな災害や事故について想定した訓練を実施し、その時々的確に行動出来るよう安全や事故防止への意識を高めている	・小学校へ避難する訓練を行い、保育者も緊張感を持ち取り組んでいた。子どもは保育者に頼ることなく自分の力で避難することが出来るようになってきているが今後も引き続き行う中で自分の命は自分で守る意識を高めていきたい	B	B	・昨年は台風被害があり予想していなかったことが起きた。実際に経験したことで自分事として考えられる良いきっかけになった。一年生の避難訓練の様子を見ていくと園での積み上げがあるからと感じる。今後も防災への意識を高めていくことが大事である ・大人にやってもらえるという意識は、やはり家庭と協力し合っていく必要であり、出来たことを価値づけることが必要。あたり前に出来ている子でもほめ、モデルを示していけると良いのかもしれない	・様々な時間や想定で訓練を行い、職員が緊張感をもって臨機応変に判断できるようにしていく。また小学校とも連絡を取り合いながら小学校まで避難できるようにする	
		(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣を身につけ自分から進んで行うことが出来るようにしている	・保育者も一緒に行いながら、その都度伝えていったり一人一人に合わせたやり方を伝えていったりすることを意識していった。「出来たね」などと肯定的な言葉を意識して伝えていった中で自分のことは自分でやろうとする姿が増え、出来たことが自信となっているが大人にやってもらえるという態度が見られる	B	B	・家庭と連携を取りながら「任せること」や「感謝される」経験を増やし自立心や満足感を積み重ね自分でやろうとする気持ちを育むようにしていく	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人に合った支援計画を立て、園内研修で表れを伝え合ったり支援方法を学び合ったりしている	・振り返りの時間を活用し、子どもの育ちや困っている姿を共有し、全職員が協力し合って日々の保育を行ったり、成長している様子を確認し合い保育者自身もより良い支援の方法を考え合う姿勢が出来た	A	A	・全職員が協力し合っていることが保護者に伝わっている	・引き続き、園全体で伝え合い、協力し合ったり、個々の行動の表れを見守り援助したりし、安心感を持って生活出来る様に個の良いところを伝え自信につなげていく	
		(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割に責任を持ち、協力し合い教育、保育を行っている	・行事などの準備を段取り良く出来なかったこともあったが全職員で会議などで共有して責任を持って協力して進めることは意識していった。少ない職員の中でも進捗状況を確認し合い、やり方を変えるなど柔軟な対応を時には行った	A	A	・全職員が協力し合っていることが保護者に伝わっている ・研修として保育の視点をしぼり共有出来るということが、保育者それぞれが自分事として取り組むことにつながっている	・職員同士、声の掛け合いや助け合いを意識していくと共に行事などの反省を引き継ぎ、今後に生かすようにする
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「聞いてみよう 伝えてみようをつなげる援助」を意識し、日々の手だてを行い、園内研修を進めている	・園内研修で子どもの姿や課題について話し合いを重ね、子どもに必要な手立てを具体的に考えたり公開保育では職員同士で保育を確かめたりしながら、より深く考えていった。積み重ねの中で子どもの姿をよく見る、子どもの言葉を聞くことで新たな子どもの内面を発見したり共感したりするなど保育者自身の心が動くことが増えた	A	A	・遊びの再構成と遊び込むは紙一重。停滞することもあり、やってみないとわからないこともある。準備していても予想通り出来ないこともある。日々、環境について振り返りをしながら考えていることが子どもの遊びが豊かになっていると思う	・今後も園内研修のテーマを全職員で理解しながら日々の手立てを意識して進めていく。また他園の職員の見解を自園の保育に反映できるようにしていく	
		(1)教育・保育環境の充実	豊かな体験が出来るように素材研究や、遊びを十分楽しめる道具や教材を準備し、考えたり、試したり、工夫したりして遊べる環境を整えている	・豊かな自然を活かした環境や子どもが選択して遊ぶことが出来るような素材の提供を工夫していった。その中で「こうしたらこうなるかな」などと予想しながら遊ぶようになり、自分で考えて作ったり、周りに発信したりする姿が増え、遊びが広がっていくことが多くなっている。遊びが停滞した時の保育者の遊びの再構成や発達を押さえた教材研究などの力の弱さを感じる	B	A	・いろいろな遊びを経験させてくれていて遊びがとても充実している。子どもたちの中から考えさせていることが良い	・保育者自身も様々な素材や自然物に目を向け、保育の中に取り入れられたり環境の再構成のタイミングについて見極めたりしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での様子や遊びの紹介をクラスだよりやボードなどの視覚を使って発信し、保護者の思いを受けとめながら子どもの育ちを共有している	・おたよりやボードで写真を載せて伝わりやすくなったことに加え今まで以上に子どものつぶやきなど丁寧に伝えていくことを意識した。保護者も子ども同士のやり取りの大切さや難しさを理解し、耳を傾けてくれることが増えた	A	A	・小学校はホームページやおたよりしか家庭に発信出来ないが園では、おたよりや日々のボードで家庭に発信していることは子どもの成長を見ることが出来、とても良い。また園だよりで職員の保育への思いが書いてあり保護者も安心感を持ち園理解が出来ていると感じた	・園での教育・保育の意図や目的を保護者に知らせ協力体制で園運営が出来るようにしていく。引き続き、子どもの姿からの育ちや気づきを保護者にもわかりやすく伝えていく	
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流を行い、園児、児童、職員とのつながりを深めている	・出来る方法、出来る範囲で今まで行ってきた交流をつなげたり、新しく取り組むことも行っていった。(親王囃子)交流や園庭から小学生の姿を見ることで興味や憧れを持つことにつながっている。小河内との交流はお互い楽しみとなっている	A	A	・小学校がすぐ隣で交流しやすいい強みがあるので今後も引き続き良い関係を築いて欲しい ・地域とつながろうとする気持ちは嬉しく、子どもたちが小島を好きでいて欲しいと思う。小さい時だからこそ参加したい、参加できるものもある。今までやってきたことがコロナ禍で途切れてしまったことを今後、繋げていって欲しい	・小学校の職員と連絡を取り合い、園と小学校とのつながりを今後も深めていく。その中で小学生への憧れや小学校入学に安心感を持つことが出来るようにしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	様々な体験を通して地域の人や自然、文化に触れる機会をもち「小島が好き な子」を育てている	・地域の人、文化に触れる機会がもてなかったので意識して散歩の機会をつくっていくことが必要と感じた。園の畑や身近な自然物を遊びに取り入れたことで自然の美しさや不思議さに感動する心が育っている	B	B		・地域と連携をしながら小島の良さや文化に触れる機会を作っていく散歩コースや史跡、地域の凄い人(〇〇名人)などの情報を集めていき地域の人とつながる方法を考えていく	